

保健物理・環境科学部会長就任の挨拶

飯田孝夫（名古屋大学）

第4期原子力学会保健物理・環境科学部会の部会長に就任することになりました飯田です。保健物理・環境科学部会の立ち上げと部会の基礎を確立された第1・2期の小佐古元部会長や、それを発展させ部会活動を活性化された第3期の内田前部会長の後を引き継ぐために、部会員の期待に沿えるような部会運営ができるか不安はありますが、部会員の皆様のご協力と占部（福山大学）、本間（原研機構）両副部会長および運営委員の方々のサポートにより任期を務めさせていただきます。

原子力学会における部会制度による部会活動も定常化し、保健物理・環境科学部会の現在の会員数は200名を越えました。しかし、部会が設立されてから6年も経過すると、大会での発表件数も参加者にも固定化が見られます。もう一段上にこの部会を活性化するために、企画行事等を通して、保健物理・環境科学部会が魅力的であるような部会活動を行っていきたく考えています。第1期から3期までの部会運営において、事務局の飯本・高橋両氏に過大な負担がかかっていました。今期からは、両氏にも幹事をお願いしますが、他の運営委員の方にも幹事として分担していただくように総務、会計等の担当委員を決め、運営委員が連携して部会運営を行っていくつもりでいます。内田前会長の若手の参加による部会活性化の提案に対して、今期の運営委員には複数の若手の部会委員にも加わっていただきました。

今期の目標として、これまでと同じく若手の研究者にも魅力のある企画行事を立案し、部会活動のさらなる活性化に務めたいと思います。部会で取り上げる企画行事としては、この分野で今後重要となる可能性のあるテーマを取り上げるつもりでいます。この分野は境界領域のため、魅力的な課題が多くあります。部会を横断したテーマも考えられます。そのような問題を企画行事や学会発表で取り上げていけば、若手の研究者にも魅力のある部会とすることができると考えています。

保健物理・環境科学部会を発展させるためには、部会員の皆様の研究発表会への積極的な参加が必要です。学会の会期中に開催する保健物理・環境科学部会の総会へも参加して、企画行事等の提案をお願いします。大学や研究所や事業所等で行っている研究活動の成果を学会で発表し、討論することが新しい研究の種を生み出す可能性を有しています。それには部会員それぞれが、新しい意識をもって研究等の活動に取り組み、部会活動を活性化していく必要があります。保健物理・環境科学部会を魅力のある部会としていくために、部会員の皆様のたいなるご協力を期待しています。